

出雲市中小企業景況調査結果（平田商工会議所管内）

今 期（2013年7－9月）の 概 要

調査期間 平成25年10月1日（火）～10月15日（火）

対象企業 調査対象企業数30社 回答率27社（回答率90.0%）
内訳：建設業4社、製造業6社、卸売業2社、小売業9社、サービス業6社

概 況

○全業種の今期業況DIをみると、前期比で△15.4（前期調査△24.1）とマイナス幅が縮小しました。前年同期比でも△8.3（前期調査△27.6）とマイナス幅が改善しています。来期業況見通しDIでは、今期比で△25.0（前期調査△34.5）とわずかに上向き見通しです。

○全業種の今期売上DIは、前期比で△22.2（前期調査△6.9）と、建設業△50.0、製造業△50.0、サービス業△50.0と3業種で大幅に悪化したこともあり、マイナス幅が拡大しています。前年同期比でも建設業△33.3、小売業△44.4、製造業・サービス業△16.7のマイナスが影響し、△19.2（前期調査△13.8）とやや悪化しています。来期売上見通しDIは引き続き悪化を懸念しているところが多く、今期比で△23.1（前期調査△46.4）とマイナス幅がやや改善するものの、依然厳しい見方をしているところが多く見られます。

業種別景況調査の主要DI

1、建設業

- ・今期業況DIが、前期比で△25.0（前期調査△66.7）と悪化幅が縮小しました。前年同期比では33.3（前期調査0.0）と好転しています。今期売上DIは前期比で△50.0（前期調査0.0）大幅悪化となっています。前年同期比では33.3（前期調査△66.7）と大きく改善しています

が、「業界内の業者数の増加による競争の激化による売上の減少」を懸念する企業の声がありました。

- ・来期業況見通し DI は今期比で△33.3（前期調査△66.7）悪化幅が縮小するも、売上見通し DI は△66.7（前期調査△66.7）と、依然として悪化の見通しとなっています。

2、製造業

- ・今期業況 DI が、前期比△33.3（前期調査△14.3）、前年同期比でも△33.3（前期調査△28.6）と悪化しています。売上 DI は前期比△50.0（前期調査 14.3）と一気に悪化していますが、前年同期比では△16.7（前期調査△42.9）と、マイナス幅が縮小しました。
- ・来期業況見通し DI は、今期比で△16.7（前期調査△14.3）と若干の悪化が見込まれていますが、売上見通し DI では今期比で0.0（前期調査△42.9）と、大きく改善する見通しです。

3、卸売業

- ・今期業況 DI が、前期比で100.0（前期調査 50.0）と改善。前年同期比でも100.0（前期調査 100.0）と引き続き好調を維持しています。売上 DI では前期比で100.0（前回調査 100.0）、前年同期比でも100.0（前期調査 100.0）と、いずれも3期連続で好調を堅持しています。引き続き、出雲大社大遷宮の効果を挙げる声がありました。
- ・来期業況見通し DI は、今期比では0.0（前期調査△50.0）と、改善することが予測されています。売上見通し DI では今期比で0.0（前期調査 0.0）と横ばいで推移する見通しとなっています。

4、小売業

- ・今期業況 DI が、前期比で△22.2（前期調査△55.6）とやや上向いています。前年同期比は△22.2（前期調査△77.8）と、マイナス幅が縮小しました。売上 DI は、前期比で0.0（前期調査△66.7）と大幅に改善し、前年同期比でも△44.4（前期調査△66.7）とやや回復傾向にあります。
- ・来期業況見通し DI は、今期比で△33.3（前期調査△55.6）、売上見通し DI も△44.4（前期調査△66.7）とやや改善する見通しとなっています。

5、サービス業

- ・ 今期業況 DI が、前期比で△20.0（前期調査 0.0）、前年同期比でも△25.0（前期調査△12.5）と悪化しています。売上 DI は前期比で△50.0（前期調査 12.5）、前年同期比も△16.7（前期調査 12.5）と、悪化傾向にあります。
- ・ 来期業況見通し DI は、今期比で△25.0（前期調査△12.5）でやや悪化する見込みですが、来期売上見通し DI では今期比0.0（前期調査△25.0）と回復する見通しとなっています。

設備投資動向

1、今期設備投資

- | | |
|-------|--|
| 全業種 | 設備投資を実施した事業所の割合は25.9%（前期調査 31.3%）で、「機械・備品」「車両運搬具」への投資が同率で並んでいます。 |
| 建設業 | 実施割合が50.0%で、「機械・備品」「車両運搬具」が同率で並んでいます。 |
| 製造業 | 実施割合が16.7%で、「機械・備品」への投資が挙げられています。 |
| 卸売業 | 実施はありませんでした。 |
| 小売業 | 実施割合が33.3%で、「車両運搬具」の割合が最も高くなっています。 |
| サービス業 | 実施割合が16.7%で、「機械・備品」への投資が挙げられています。 |

2、来期設備投資

- | | |
|-----|---|
| 全業種 | 設備投資を計画している事業所の割合は24.1%（前期調査 36.7%）で、「建物」「機械・備品」「車両運搬具」への投資の割合が |
|-----|---|

同率で並んでいます。

建設業 設備投資を計画している企業はありませんでした。

製造業 設備投資を計画している割合が42.9%で、「機械・備品」「車両運搬具」の割合が同率となっています。

卸売業 設備投資を計画している企業の割合が50.0%ありました。

小売業 設備投資を計画している割合が30.0%で、「建物」「機械・備品」「付帯施設」の割合が同率で並んでいます。

サービス業 設備投資を計画している企業はありませんでした。

経営上の問題点

全業種 第1位は「需要の停滞、受注減少」で、41.7%でした。第2位は「単価の低下・上昇難」「材料（原材料）等の仕入価格の上昇」でした。

建設業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で、50.0%でした。

製造業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で、50.0%でした。

卸売業 第1位が「単価の低下・上昇難」で、50.0%でした。

小売業 第1位は「需要の停滞、受注減少」「店舗・機械・備品等設備の老朽化」「その他」が同率で、25.0%でした。

サービス業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で、75.0%と大きな割合を占めています。

注：DI（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から、「減少」・「悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

詳細は業種別景況を参照してください。